

# 地域で災害対応の標準化を目指す

## 3 関東の歴史的市街地で近年発生した災害時の対応を知る

ここでは、関東の歴史的市街地で近年発生した災害において、住民や外部アクターの共助を中心に行われた活動を紹介します。

### ■東日本大震災における香取市佐原伝建地区での対応

香取市都市整備課やNPO 小野川と佐原の町並みを考える会の高橋賢一氏へのヒアリング、さらに文献1)から得られた情報を整理した香取市の震災タイムラインを液状化被害地域と伝建地区で分けて図1に示す。香取市では、佐原の歴史的町並み保存地区において、江戸時代から昭和時代まで続く町家 300 余軒中、3分の1以上が棟積みや瓦葺に被害を受けた。また、壁の亀裂や躯体の歪みも見受けられた。特に、千葉県指定有形文化財である7件 12 棟の建造物は、江戸時代後期から明治時代中期に建築されたもので、経年による老朽化から被害が著しかった。

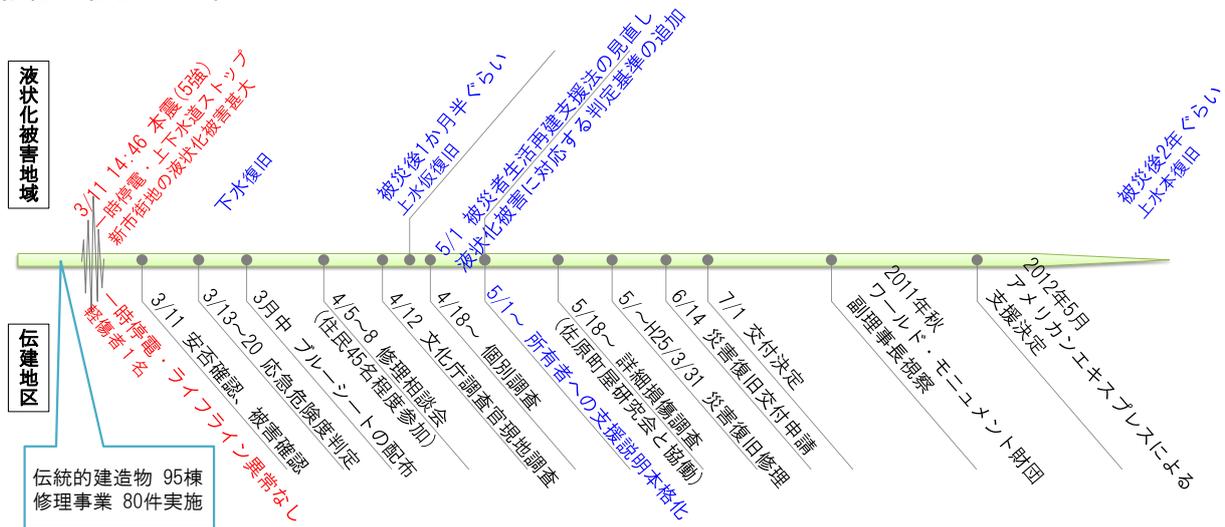


図1 香取市佐原における東日本大震災時のタイムライン

歴史的町並みが桜川市真壁と同規模の地震被害を受けたが、香取市ではそれよりも利根川を埋立て造成された新市街地の液状化被害が甚大であった。利根川沿いの低地や佐原・小見川の新市街地においては、停電と上・下水道の断裂によってインフラが途絶し、数ヶ月間居住が困難となった。このような状況の中で、行政では発災後しばらくは歴史的市街地の支援に注力するのが難しかったことが想像できる。発災からおよそ2ヶ月後に被災者生活再建支援法が見直され、液状化被害に対する判定基準が追加されると同時期から、行政による所有者への支援の説明が本格的に開始されている。なお、香取市佐原の伝建地区および周辺の景観地区では、発災2日後から行われた応急危険度判定において住民らの心情等に配慮した取り組みを行っているが、それについては次々項で解説することにする。佐原では NPO 法人小野川と佐原の町並みを考える会を中心に、災害復興に向けて次の活動が民間主体で行われた。特に伝建地区制度のもとでの災害復旧支援を受けられない県指定有形文化財を守るための活動は、今後の参考になる取り組みであろう。

- ① 保存地区の外観被害調査を実施・・・地図上に被害状況を示した。

## ② 3つの復興方針を立てる

- 方針1 被害の特に大きい県指定有形文化財の修復支援
- 方針2 町並み保存地区内の特定・指定建造物の修復支援
- 方針3 町並み保存地区内のその他の建造物、  
コミュニティを守る人々の支援

## ③ 方針を実現するための活動

- ・資金の募金活動
- ・県への県指定文化財保存の訴え
- ・アメリカのファンド会社「ワールドモニュメント財団」へ資金援助の申請



写真1 北条街かど新聞<sup>2)</sup>

### ■2012年5月つくば市竜巻災害におけるつくば市北条地区での対応<sup>2)</sup>

2012年5月につくば市北条地区を竜巻が襲い、町並みの中心部に集中的に被害をもたらした。被害にあった場所には坂道もあり、車もぼこぼこになって動かせず、自転車も飛ばされてしまうなど交通手段も絶たれてしまった。高齢者も多く電気なども止まってしまい、情報源も絶たれてしまった。そこで北条街づくり振興会（地域の情報の発信源として活動している北条ふれあい館の運営や、北条市の開催、大蔵の音楽祭の開催などを担う市民団体）では、災害に関する情報やがれきの回収や支援物資の情報などをまとめた「北条街かど新聞」を中心部に掲示することにした（写真1）。特に自力で動けない高齢者などに向けて、洗剤やマスクといった物資を駅弁スタイルで首から下げて持ち歩き、班ごとに範囲を分けて住人の御用聞きを行った（写真2）。電子機器による恩恵が受けられない独居高齢者宅などでは大変好評だった。こうした活動には筑波大学の学生や周辺の一般市民がボランティアとして参加していて、これは日ごろから学生と地域との繋がりがあったからこそだった。



写真2 学生による御用聞き<sup>2)</sup>

### ■2015年関東・東北豪雨災害における栃木市での対応

巴波川沿いにある栃木町地区や嘉右衛門町地区では、早朝から各家庭や近隣住民の協力で家財の片付けや畳上げ等が行われ、出入りの職人らで建具等の応急復旧が迅速に行われた。また、災害当日に本研究プロジェクトでの繋がりを活用してボランティアの呼びかけを開始し、自治体や市民活動推進センター、社会福祉協議会、地域住民、職人、近隣教育研究機関が情報交換を密に行い、支援方針を模索した。社会福祉協議会が立ち上げた災害ボランティアセンターでは、床上浸水など被害が甚大だった住宅の片付けを優先してボランティア派遣を行い、伝建地区担当部局は市内全域の災害対応に追われていたことから、本研究プロジェクトの繋がりで集まったボランティアは所有者の手が回らない居住スペース以外の歴史的建造物の片付けや民間所有の古文書の移動などを担う支援活動を実施した（写真3）。特に土蔵などの普段立入ることが少ない建物に注意を払い、状況の確認と乾燥を呼び掛けた（次々項参照）。



写真3 2015年関東・東北豪雨災害における水害ボランティア活動

## 参考文献

- 1) NPO小野川と佐原の町並みを考える会：佐原の町並み 東日本大震災からの復旧、2014年3月
- 2) 宮本孝：各地からの報告、でんけん特別号 防災と地域、pp.15-16、2015年12月